

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年7月25日 (2013.7.25)

【公開番号】特開2012-36253(P2012-36253A)

【公開日】平成24年2月23日 (2012.2.23)

【年通号数】公開・登録公報2012-008

【出願番号】特願2010-175528(P2010-175528)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/73 (2006.01)

C 0 8 F 299/06 (2006.01)

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 18/73 Z

C 0 8 F 299/06

C 0 8 F 290/06

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月11日 (2013.6.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 6 1 】

《実施例 1》[ウレタン(メタ)アクリレート(I-1)の製造]

(i) 冷却管、攪拌装置および温度計を取り付けた反応容器に、上記の一般式()で表されるジイソシアネート化合物()において、 R^2 および R^3 がいずれも 2 - アクリロイルオキシエチル基であり、m がほぼ 1 であるジイソシアネート化合物[以下「ジイソシアネート化合物(- A)」という] (BASF 社製「Laromer LR 9000」) 70.0 質量部およびジブチル錫ジラウレート 0.1 質量部を仕込み、50 に昇温した後、2 - ヒドロキシエチルアクリレート(日本触媒株式会社製「BHEA」) 29.9 質量部を 1 時間かけて滴下した後、90 で 5 時間攪拌して反応を行なった。この反応液中の残存イソシアネート量をフーリエ変換赤外光度計 (FT-IR) (SHIMADZU 社製「IRAffinity-1」) を使用して測定したところ、ウレタン化反応が定量的に行われ、最終的にはイソシアネート量がほぼゼロになり、アクリロイル基とウレタン結合が分子内に導入されたことが確認されて、上記の式 (I-1) で表されるウレタン(メタ)アクリレート[以下「ウレタン(メタ)アクリレート(I-1)」という] が 99.9 質量部得られた。

(ii) 上記 (i) で得られたウレタン(メタ)アクリレート(I-1)の粘度を上記した方法で測定したところ、下記の表 1 に示すように、11.4 Pa・s / 40 であった。